

## 令和8年度当初予算概要

一般会計の予算総額は、前年度比5.5%増の228億7,175万7千円を計上しました。

なお、令和7年度当初予算は骨格予算のため、肉付け後の令和7年度6月補正後の予算額と比較すると、1.7%増となります。

令和8年度当初予算は、第五次西都市総合計画後期基本計画の2年目として、計画に掲げた将来像「抜群に住みやすいまち」を具現化するための「未来への投資予算」と位置付けて編成いたしました。

都市構造再編集中支援事業、市単独道路改良整備事業や西都中学校建設事業などの大型事業が本格化することから、前年度を上回る予算規模となっております。

一般会計の主な歳入は、市税が前年度当初比2.1%増の33億5,764万7千円、地方交付税は7.4%減の47億8,867万8千円、国庫支出金は都市構造再編集中支援事業費などの増により6.7%増の38億4,286万1千円、県支出金は農業経営体育成支援事業関係事業費などの増により10.7%増の20億9,942万8千円、寄附金はふるさと納税寄附金など前年度と同水準の30億90万1千円、繰入金は60.2%増の35億8,738万円、市債は51.0%減の3億9,150万円を計上しています。

次に、歳出の義務的経費について前年度当初予算と比較すると、人件費は、退職手当の増などにより、7.2%増の35億2,969万3千円、扶助費は介護給付・訓練等給付費の増などにより、3.6%増の49億9,550万8千円、公債費は、償還元金の増などにより、13.6%増の10億3,068万2千円となり、義務的経費全体では5.9%増の95億5,588万3千円となります。

また、投資的経費については、都市構造再編集中支援事業費の増などにより、全体では19.4%増の27億8,869万5千円となります。

以上の結果、自主財源比率は46.3%、依存財源比率は53.7%となります。

なお、基金の令和8年度末現在高は、103億8,753万9千円、地方債の令和8年度末現在高については、108億5,820万3千円を見込んでいます。